



「水の域産域消」推進と容器入り飲料の使用削減に向けた自治体宣言

2010年11月

私たち自治体は、持続可能な社会づくりに向けた積極的な取組みの一環として、健全な水循環や水源保全および CO2、ごみ、社会的なコスト削減の観点から、遠くから運ばれた容器入り飲料ではなく地域の水道水の価値を見直し、利用を推進していきます。

1) 水道水の見直しと利用推進

水道水の飲用推進に際し、環境保全の観点からも水道水の価値を見直し、利用を促進します。

2) 水飲み場の整備・管理

住民の水道水利用環境向上のため、公共施設や公共スペースには水飲み場を数、場所ともに使いやすいように整備し、適切に管理していきます。

3) 庁舎内や公共施設における容器入り飲料の調達見直し

会議等では、容器入り飲料は使用せず湯のみやグラスで飲み物を提供する、飲料自動販売機の 設置を削減する、職員や関係者にもペットボトル、缶等の容器入り飲料の使用見直しを呼びかけ るなど、自ら率先垂範します。

4) 官民連携による水道水推進と魅力あるまちづくり

公共的スペースを有する事業者による水飲み場の設置を推奨、また飲食店等による水筒に水を入れられる給水サービスや水筒持参者への特典サービスの提供などを積極的に進め、飲料水にアクセスしやすい魅力ある街づくりを官民連携で推進します。

5) 市民や事業者への普及啓発

市民や事業者に対して、飲料用としての水道水利用の環境・社会的効果を啓発し、水の域産域消の自発的な行動を促します。

<参加自治体>

秋田県 能代市、長野県 飯田市、愛知県 安城市、愛知県 碧南市、愛知県 新城市、三重県 桑名市、滋賀県 甲賀市、奈良県 生駒市、兵庫県 加西市、鳥取県 北栄町、山口県 宇部市、徳島県 上勝町、福岡県 大木町、大分県 日田市、熊本県 天草市、熊本県水俣市 (2011年3月1日現在、16自治体)



2010年11月

「水の域産域消」推進と容器入り飲料の使用削減に向けた自治体宣言 ご参加の呼びかけ

日本では、全国どこでも、蛇口をひねれば安全でおいしい水道水を得ることができます。世界 に誇る技術を持ち、水質改善や安全な供給に向けた努力が日々重ねられています。

しかし一方で、ペットボトルなどの容器に入った水やお茶の利用がこの 10 年ほどで急激に増え、 テレビで映される政府、省庁などの会議でもテーブル上に容器入り飲料が並ぶことが多くなって います。3R のうちリサイクルは進んでも、ごみは減っていないのが現状です。

また、容器入り飲料は、「飲料・容器の製造」「輸送」「冷蔵販売」「容器の処理またはリサイクル」といったライフサイクルの中で多くの資源やエネルギーを必要とします。さらに、容器をリサイクルするための収集・運搬費用は、自治体の負担となっています。水道水利用へとシフトすることで容器入り飲料の利用を減らせば、二酸化炭素、ごみ、そして社会的なコストの削減につながります。

健全な水循環や水源保全の観点からも、遠くから運ばれた容器入り飲料ではなく地域の水道水 の価値を見直し、利用を推進していくことが、今求められています。

そこで、私たち持続可能な社会づくりに積極的に取り組む自治体および環境NPOは、自らも積極的な取組みを行うとともに、趣旨に賛同する自治体の宣言への参加を呼びかけます。そして、宣言に参加する自治体とともに、政府および日本社会に対しても「水の域産域消」推進と容器入り飲料の使用削減を呼びかけていきます。ついては、ぜひ貴自治体にも宣言にご参加いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

<呼びかけ元>(2011年3月1日現在)

環境首都コンテスト全国ネットワーク、水 Do!キャンペーン、

宮本勝彬(水俣市長) 牧野光朗(飯田市長) 山下真(生駒市長) 中川暢三(加西市長) 穂積 亮次(新城市長) 中嶋武嗣(甲賀市長) 齊藤滋宣(能代市長) 禰宜田政信(碧南市長) 笠松 和市(上勝市長) 松本 昭夫(北栄町長) 石川 潤一(大木町長) 佐藤陽一(日田市長)

ご参加いただける場合は、Email または別紙にて FAX で、水 Do!キャンペーン事務局までご連絡いただければ幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

水 Do!(スイ・ドゥ)キャンペーン 事務局 www.sui-do.jp

認定 NPO 法人 FoE Japan 廃棄物・3 R 政策チーム (瀬口、吉田)

〒171-0014 東京都豊島区池 3-30-8 みらい館大明 1F TEL 03-6907-7217 FAX 03-6907-7219

E-mail tsukaisutezero@foejapan.org URL http://www.foejapan.org